

医療倫理・医療安全論

1. 医療倫理の必要性

江原 朗

7階第5研究室

医療が重大な 人権侵害を起こす危険性

- 「医の倫理」: 医療界の自主規制
- 「法律」: 人権を守る最後の砦
- 人権:
 - 国民を守る、
 - 医療者を守る

医療に関する法律

- 憲法、刑法、民法
- 医療法、薬事法、
- 身分法：医師法、歯科医師法、薬剤師法、保健師助産師看護師法、
- 精神保健福祉法
など

法的に見た基本的視点

- 人格権の尊重と人間の尊重
- 「法によるチェック」と「法に対するチェック」
- 患者の自己決定権とメディカル・パートナーリズム
- 疑わしきは生命の利益に
- メディカル・デュープロセス

自己決定権とパターンナリズム

- 自己決定権：人体実験・臨床試験などの歴史的な背景
 - 輸血拒否の問題などで訴訟も
 - しかし、十分な医療知識を患者は有しない
- パターンナリズム：医療者の裁量権なしでは医療は成り立たない。

疑わしきは生命の利益に

- 優生思想の乱用の危険
- 優生思想：生まれてきてほしい人間の生命と、そうでない生命を区別。
 - 出生前診断や
 - 断種手術など

メディカル・デュープロセス

- 適正手続きを介した医療行為、治験など
 - インフォームド・コンセント
 - 倫理委員会
 - 社会的なコンセンサスのない医療や治験などは犯罪とみなされる。

診療契約

- 準委任契約：
 - 体を元通りにしてくださいと言われても
確約できない
- 不履行責任の有無：
 - 結果獲得のために医師が努力したと
評価できるかを医療水準に照らして

どこまで説明するか

- 医師・患者間の説明のレベルの差
 - 平均的な医師が必要と考える
 - 平均的・具体的な患者が求める
- 二者のずれをどう調整するか

倫理的な検討が必要な問題(1)

- 不妊治療などの生殖医療の問題
- クローン技術の発達とその利用
- 遺伝子操作に関する問題
- 移植にかかわる脳死判定の問題
- 薬剤の治験に関する事項
- 感染症対策における人権の制限

倫理的な検討が必要な問題(2)

- インフォームド・コンセントの問題
 - 認知症の高齢者に判断できるか
 - 未成年は判断できるか
 - 情報の非対称性の問題
 - がん告知の問題

倫理的な検討が必要な問題(3)

- 先進医療に関する問題
 - 先進医療への期待
 - 確実性のない医療での事故の恐れ

この2点の間でどうバランスを取るのか
(ドラッグ・ラグの問題)